

浅野誠

庭畑

野菜・観葉植物

2018年

私のブログ「沖縄南城・人生創造・浅野誠」の2～3割を占めるのは、我が庭畑の記事だ。それを編集して毎年1～2冊の小冊子を作製している。今回は2018年1～12月の記事だ。

その記事で多いのは、「野菜」と「観葉植物」の記事だ。このころから、野菜はベランダ中心になり、庭畑は観葉植物中心へと移っていく。2018年はその変わり目になる。

2022年1月作成

目次

(記事の配列は、12月から1月へとさかのぼるブログ掲載月日順)

- 2018年12月21日 自然に近い我が庭畑の作り方
- 2018年12月07日 大根 玉ねぎ シマラッキョウ パパイア キヌサヤ 野菜11最終回
- 2018年11月30日 セロリ カボチャ トマト ナス 野菜10
- 2018年11月19日 オープンガーデン 中本幸光宅 中村光博宅 知念恩栄宅 嶺井時光宅
- 2018年11月18日 カンダバー (サツマイモの葉) シマナー (カラシナ) ミツバ パセリ 野菜9
- 2018年11月11日 コリアンダー (パクチー) コマツナ ミズナ シュンギク 野菜8
- 2018年11月06日 ネギ ツルムラ 雲南百薬 (長生百薬) 野菜7
- 2018年11月01日 ハンダマ (水前寺菜) エンサイ (ウンチュー、空心菜) ニガナ 野菜6
- 2018年10月25日 サラダナ レタス (玉チシャ) チマサンチェ ワサビナ 野菜5
- 2018年10月19日 ニラ ルッコラ シソ (大葉) 野菜4
- 2018年10月14日 モロヘイヤ 里芋 野菜3
- 2018年10月09日 ウリズン豆 オクラ 野菜2
- 2018年09月23日 私の野菜育て前史 野菜1
- 2018年09月11日 ナンテン ムラサキオモト イオニマス サニーフォスター 観葉植物24最終回
- 2018年09月05日 金煌マンゴの伐採
- 2018年09月04日 マッコウ (ハリツルマサキ) カルーナ ギボウシ 観葉植物23
- 2018年08月26日 ミルクブッシュ ヤブコウジ ハツユキカズラ ツルニチニチソウ 観葉植物22
- 2018年08月20日 ガジュマル・マンゴ伐採 来客・ユンタク
- 2018年08月18日 ユーフォルビア・ダイヤモンドフロスト ユーフォルビア・ラクティア ダイギンリュウ 観葉植物21
- 2018年08月10日 カシノハウラジロ ツワブキ リュウキュウツワブキ 観葉植物20
- 2018年07月31日 ヤシ類 観葉植物19
- 2018年07月23日 ポトス ホヤ (サクララン) モンテスラ 観葉植物18
- 2018年07月13日 フィロデンドロン・ライムライト ハンギングヘリクニア ペペロミア 観葉植物17
- 2018年07月06日 パキラ ピレア フィットニア 観葉植物16
- 2018年06月27日 ディフェンバキア デュランタ (タイワンレンギョウ) キバナタイワンレンギョウ 観葉植物15
- 2018年06月22日 レモンティートリーの開花
- 2018年06月16日 セダム 蘇鉄 チランジア 観葉植物14
- 2018年06月15日 新しいハーブ活用への挑戦 少しずつ ハーブソルトやペイストなど
- 2018年06月08日 タマシダ シダ類 イワヒバ 観葉植物13
- 2018年06月01日 スパティフィラム シッサス シペラス 観葉植物12
- 2018年05月30日 ライチとパッションフルーツの収穫
- 2018年05月24日 コーヒーノキ コレウス シェフレラ 観葉植物11
- 2018年05月18日 嵩西洋子『南の島のハーブ』(南山舎2018年刊)を読む
- 2018年05月17日 ゲッキツ 月桃 観葉植物10

浅野誠 庭畑2018年

- 2018年05月07日 カランコエ セイロンベンケイ クラッスラ(金の成る木) ハナキリン 観葉植物9
- 2018年05月01日 花々の世界 我が庭畑のこのごろ
- 2018年04月30日 クワズイモ(アロカシア) オリズルラン 観葉植物8
- 2018年04月17日 オオタニワタリ(アスプレニウム) アロエ 観葉植物7
- 2018年04月10日 アグラオネマ アスパラガス 観葉植物6
- 2018年04月07日 満開近づく ティートリー オクラレルカ アマリリス
- 2018年04月01日 サンセベリア(トラノオ) クロトン 観葉植物5
- 2018年03月23日 トックリラン リュウゼツラン 観葉植物4
- 2018年03月19日 ビワ収穫開始 コーヒー植え 着生ラン開花 ティートリー開花へ バナナ開花 庭畑の近況
- 2018年03月15日 ドラセナ 観葉植物3
- 2018年03月05日 コルディリネ ソング・オブ・インディア 観葉植物2
- 2018年03月01日 メイフラワー開花 着生カトレア開花 2本目のホワイトサポテ植える
- 2018年02月22日 千年木 観葉植物1
- 2018年02月11日 まとめと今後 ステージ転換 ミフクラギ伐採 私の庭畑つくりの特徴32最終回
- 2018年02月01日 らせん型ハーブガーデン 私の庭畑つくりの特徴31
- 2018年01月23日 インドナツメ収穫 とても美味しくて驚き
- 2018年01月22日 蝶と食草 私の庭畑つくりの特徴30
- 2018年01月14日 池 私の庭畑つくりの特徴29
- 2018年01月06日 ブーゲンビリア アリよけ・蚊よけミント 鳩 チシャノキ ビワ

2018年12月21日

自然に近い我が庭畑の作り方

15年前の今ころは、敷地購入を終え、我が家設計の最終局面だった。住む家は、恵美子と建築士とが相談しながら進めた。私は、自分が使う部屋の希望を出すだけだった。

庭畑の方は、私が担当した。といっても、建築士への注文は、自然に近い状態の敷地をできる限り残すことだった。予算上も、敷地造成や工事にかかる費用はなかった。当時の敷地は、「雑木林」というのが適切な言葉になる状態だった。隣地の巨大墓が戦禍でも残り、自然林が復活してきたのに近い状態だった。その敷地に隣接する我が敷地には、前所有者が10本余りのクロキ、マンゴー、ライチを植えたいたぐらいい、自然状態に近かったといえよう。だから、工事前には、足を踏み入れるのさえためられる状態だった。

自然状態を残す方針の例外は、排水路をつくるために隣地の敷地を購入する際の条件としての、高さ50センチぐらいの境界壁を作ることだった。また、南側に隣接するマンゴー畑との境界にトンプロックを10個ほど並べ、土流出をおさえた。それら以外に境界壁はない。かなりの昔からある敷地境界の石垣ぐらいだ。といっても、やんばるの猪垣に近い状態だ。

もう一つは、建物を建てるために伐採が必要な樹木を移植してもらったことだ。そして、あまりにも急傾斜なのを考慮してか、工事業者がサービスとして、敷地半ばを横切るようにして、敷地から出てきた石灰岩を積み上げて、石垣をつくっていただいた。

ということで、庭園業者を入れないで、すべて私自身がやってきた。14年余りほぼ毎日1~2時間作業をしてきた。樹木が多いが、庭師がするようなことはしないできたが、「ジャングル」化してきたので、地面に日が差さなくなり、畑で花野菜などを作るのが難しくなってきた。そこで最近では、どんどん剪定するようになった。そして、樹木を、高齢化する私が管理できる高さになるようにしている。

私の楽しみとしてやっているのだ。プラス多少の収穫という実利もある。恵美子いわく私の「作業療法」だとのことだ。

有機無農薬は、最初から続く方針だ。庭畑から出る枝葉はすべて堆肥化させて、土のなかに入れていく。それでも不足を感じたので、2年前、シルバーセンターから購入した大量の木材チップを投入した。

この土質はクチャ(粘土質)に、琉球石灰岩が混じったもので、栄養分は少ない。当初の表土の厚さは5センチくらいだったが、こうした作業がみのって、いまでは20~30センチにまでになり、花野菜ハーブ薬草果樹などが、それなりに育つようになった。



わが庭畑以外では、散歩コースでの海岸・海との出会い、太平洋・夕陽などの景観の楽しみなど、我が家での自然との付き合いは、都市生活者には信じられないほどだ。我が家を初訪問する方には、最初にベランダで景観と我が庭畑をみていただくことにしている。

写真は、ムラサキオモト 葉の裏は紫

2018年12月07日

大根 玉ねぎ シマラッキョウ パパイ

ヤ キヌサヤ 野菜11最終回

この連載も最終回だ。身近なものばかり。

まず大根。2, 3年前から始めた。表土が10センチもないころは、植えたくても植えるわけにはいかない。

土づくりが少々でき始めて、やり始めた。無論、露地植えがほとんどだが、写真のようにプランター植えもやってみる。



玉ねぎ



昨年、知人から頂いた苗を育ててそれなりに成功したので、今年は自分で買ってきて育て始めた。

シマラッキョウ

育て始めて、何年になるかわからない。夏に植え付けたままにして、春に生で食べている。畑に残ったものを夏に掘り出し、植え替えている。このサイクルを10年近くしている。肥料分が少ないためか、小さいままだが、それなりに美味しい。

パパイヤ

いつも植えているが、ほとんどが失敗だ。台風もある。買ってきた苗は、たいていが失敗。食材の残りを堆肥にしたものから、何年かすると芽生えてきたものは、結構成功する。写真もそうだ。

キヌサヤ

今年久しぶりに、種から植える。

いずれも収穫を期待している。大根はすでに一本収穫した。とれたてはみずみずしく美味しい。

2018年11月30日

セロリ カボチャ トマト ナス 野菜10

浅野誠 庭畑2018年

セロリ

毎年、買ってきた2~3本の苗を育てている。そこそこ大きくなり自給できている。

以下の三つは、今年は栽培していない。

カボチャ

たまに買ってきた苗を植えているが、上手くいくことの方が少ない。人工授粉が必要だと、どこかに書いてあったが、その通りだと思う。



トマト

長年にわたって、ミニトマトを中心に育て、少々自給してきた。木々が大きくなって畑の日照が悪くなってきたので、最近ではベランダ栽培だ。



ナス

時々植えるが、きちんとした管理ができていないためか、大した収穫はできていない。

2018年11月19日

オープンガーデン 中本幸光宅 中村光
博宅 知念恩栄宅 嶺井時光宅

18日スタートの南城市オープンガーデンを見てきた。

毎年春秋2回あるが、もう18回だ。そのうち15回前後は出かけているから、何度目かになるところが多い。だから、見ていないところを優先する。今年は一か所だ。といっても、よく出かける奥武島の竜宮を目の前にした中本幸光さんの庭だ。

海・イノーと見事にマッチさせておられる。

2回目の訪問となる中村光博さんの庭（前川）は見事だ。50年の盆栽歴を生かした庭づくり。特級の庭だが、沖縄の地元素材をうまく生かしておられるので、親しみを感じる。





佐敷の仲伊保の知念恩栄さんの庭も2回目だ。見事に作っておられる。すごいデザインというべきか。

佐敷津波古の嶺井時光さんの庭(別名山学校)は、数回目だ。私の好みの庭だ。庭というよりも、自然を生かした「休みどころ」という雰囲気。



しばしばお邪魔する安和さん(知念)、津波古義治さん(親慶原)の庭は、次の機会にした。

今年は、台風の影響で「お休み」の庭が多いのは残念だ。

回りながら参考にしようと心に決めたアイデアは、左写真のハママーチを広くはわせること。

訪問すればするほど、「いつか我が家もオープンガーデンを」という夢が、訪問したガーデンのすごさに圧倒されて遠のく。

2018年11月18日

カンダバー(サツマイモの葉) シマナー
(カラシナ) ミツバ パセリ 野菜9

カンダバー(サツマイモの葉)

強いし、どこにでもあるので、長年使われてきた。最近、グシチャンイイナという名前で、茎葉を食べる専用の種類が作られた。イモもできるが、小さい。





それを3~4年前に植えた我が畑でもあちこちに育っている。葉野菜をきらした時に収穫する。
長い間、沖縄の主食だったサツマイモと同様に、重要な役割を果たしてきた野菜だ。

シマナー (カラシナ)

強いので、こぼれ種で、畑のあちこちから出てくる。沖縄の葉野菜の代表格とっていいかもしれない。

ミツバ (上左写真)

10年以上前に買ってきた苗か種ではじめたが、その後は自生状態だ。少しずつではあるが、毎年収穫している。

パセリ (上右写真)

毎年、秋になると購入した苗を1~2本植えている。下から葉を取って使えば、初夏まで大丈夫だ。ただの飾りにしないで、私はよく食べる。

2018年11月11日

コリアンダー (パクチー) コマツナ ミズナ シュンギク 野菜8

コリアンダー (パクチー)

野菜でもあるが、ハーブ扱いもされている。苦手な人もいるが、私は好きだ。シチューやスープに入れるとおいしい。暑い時は発芽しないので、11月ごろから育て始める。

コマツナ (写真) ミズナ シュンギク

本州でもそうだが、沖縄でもよく見かける野菜で、我が家でも定番だ。





2018年11月06日

ネギ ツルムラ 雲南百薬（長生百薬）

野菜7

ネギ

風邪予防に抜群の力を発揮することを知り、3年ぐら
い前から毎日のように食べている。20日ネギの類と、3~4ヶ月育てて大きくするものの双方を栽培している。いずれ
も苗店で買ってくる苗から育てる。

ツルムラ（ツルムラサキ）

このあたりでは、畑をはじめいろいろなところで自生状態だ。雑草扱いのようなものだ。つるでいろんなところにか
らみついて成長する。我が畑でも何か所で育っているの、時々整理をかねて収穫している。

雲南百薬（最近、長生百薬という名もついたらしい）

ツルムラも栄養価が高く薬用効果があるといわれるが、雲南百薬はさらに効果が高いと言われ、苗が販売されている。
むかご（根元にできるかたまり）を植えても広がる。写真のものもそうだ。

2018年11月01日

ハンダマ（水前寺菜） エンサイ（ウンチェー、空心菜） ニガナ 野菜6

いずれも、島野菜として食卓をにぎわすし、市場で売
られていることも多い。チャンプルーや汁物にできる
し、ハンダマは、サラダや白和えにも使える。ニガナも
白和えでよく使われる。

エンサイは、水の浄化作用もあり、水槽に突っ込んで
おくだけで育っていき、水をきれいにしてくれるし、栽
培もしていることになる。

ニガナ（写真）は、岩肌などに自生しているが、畑で
栽培もされている島野菜だ。





2018年10月25日

サラダナ レタス (玉チシャ) チマサン
ンチェ ワサビナ 野菜5

今回のサラダナ、レタス (玉チシャ)、チマサンチェ、
ワサビナ (写真) は、要するに生のまま食べられ、サラ

ダによく使うものだ。最近の種類が多く、コスレタス、サニーレタスなどいろいろなものを育ててきた。

種から育てることもあるが、一個10円、または50円くらいの苗から育てる。たいていのものは、年中、育てられるから重宝だ。チマサンチェとワサビナは、数年前から育て始めた。ワサビナは、ワサビの味がする。

最近、レタスマックスなどという名前で、数種類の種が混ぜられたものが袋詰めで売られていて便利だ。

いずれも、生のまま食べられるから、サラダの他に、肉魚類のつけあわせにもいい。無論、汁物にも入れられる。沖縄ではみそ汁にも入れる。

ワサビナが、カラシナの改良種であることを最近の新聞で知った。

マイマイも好きだし、食糧不足の時の鳥にも食べられる。2~3月は、鳥害が多い時期だ。それでも、大部分は私たちが食べることになる。

2018年10月19日

ニラ ルッコラ シソ (大葉) 野菜4

ニラ

愛知の赤池の庭でも栽培していたが、その時の苗をもってきて育てている。だから、もう20歳になるニラだ。根元から5センチくらい上から切って使う。しばらくすると大きくなり、何度も収穫できる。

今年はベランダでも栽培したが、過剰収穫になってしまい、露地栽培に戻しはじめた。

ルッコラ

野菜でもあるがハーブでもある。我が家の土や気候にあっているのか、とても育てやすい。美味しいのに、知らない人が多い。野菜サラダに入れると、ドレッシングな



浅野誠 庭畑2018年

しでも他の野菜にも味が出てくる感じがする。ドレッシング味が好きでない私には好都合だ。

周年栽培も難しくない。上から葉を取ったり、茎を途中から切り取って使えば、残った根と茎で多年草化さえする。

シソ (大葉)

夏に活躍。買ってきた苗か、こぼれ種から育てている。香り野菜として使うが、たくさん収穫できるときは、さしみに一枚一枚巻いて食べるとおいしい。

2018年10月14日

モロヘイヤ 里芋 野菜3

写真は、9月16日撮影



モロヘイヤ

数年前から我が家定番の野菜となった。夏は葉野菜が少なくなるので助かる。まいた種から芽を出すのは7月なので、最初は数本の苗を買って、6月から植える。その後は自家採取の種から育てる。合わせて20~30本育てるが、今年はまいた種の発育がよくて過剰栽培になってしまった。前年の切り株から育てるときもある。

7月終わりから9月まで、葉野菜の主力の一つとなる。9月後半になると、開花した毒を持つ種が出てくるので、その前に収穫を終える。10月に入れば、種をとって終わりにする。今年は、台風24号25号の襲来で、9月末

に終わりになってしまった・

ゆでると、粘り気が出る。ゆでる他にはみそ汁の具にする。

里芋

数年前に種イモから育てた。比較的簡単だし、収穫し忘れからも育ってくる。私の好物だが、体内結石をつくるシュウ酸が多いというので、栽培を縮小している。

2018年10月09日

ウリズン豆 オクラ 野菜2

浅野誠 庭畑2018年

ウリズン豆 (以前はリュウキュウシカクマメと呼ばれていた)

我が畑でもっとも成功したものだ。露地栽培を数年前からしている。多年草化しており、今年は新しい苗を植えていない。数年前に植えたもの数本が、6月ごろから伸びてくる。高さ1.8メートルぐらいに、ヒモで柵めいたものを作り、それにつるを這わせている。最初の収穫は7月だが、本格的収穫は8月下旬からだ。12月に入っても収穫できるほどだ。



一日平均20個ほどだが、0~50個と幅がある。時に必要量を超過することもある。なぜか台風に強い。9月末の台風襲来の時も、翌日に100個近く収穫した。収穫適期は1~2日と短く、それを過ぎると、急に硬くなり豆を作り始める。

クセがない味で、どれだけでも食べられる。私などは一日30個以上食べることもある。

オクラ

3~4本をまとめて一つにした苗を売っている。毎年、それを数個植えている。必要量の3割程度を自給している。長年、育ててきたものだ。付近の農家も栽培しているので、それを観察しながらやっている。8月ごろ途中で切り戻し、9月から再収穫する方法があり、我が家もそうしている。

今年は、台風でおしまいになってしまったが。

双方とも愛好している。愛好しているから育てているのだが。双方とも、茹でるか、みそ汁の具にするなどで使っている。

2018年09月23日

私の野菜育て前史 野菜1

観葉植物の連載を終えて、今回から野菜の連載に移る。

家庭の食材の2~3割を賄うほどの野菜育ては、ここ数年のことだ。そこまで至る間に、試行錯誤をいっぱいしてきた。

岐阜の兼業農家で育った幼少期に野菜づくりをした記憶はない。もっぱら稲作の手伝いだった。

最初に手をつけたのは、1974~76年の南風原新川の借家住まいからだ。家の前に耕作放棄地のような畑があったので、いろいろと手をつけたが、まともな収穫の記憶はない。

1976年、西原の小波津団地には、3~4坪の菜園をつくる余地はあったが、しばらくして増築したので、野菜づくりは本格化させられなかった。新川も小波津団地も予行演習程度のものであった。

1991年から住み始めた赤池は、20~30坪の庭があったが、植木や花を中心にしたので、野菜づくりは数坪試みる

浅野誠 庭畑2018年

程度だった。といっても、その土地はかつてトマト栽培をしていた畑地だったので、栄養分豊豊かだった。植えれば、苦労なしに育った。植木が大きくなる前の5年間ぐらいは家庭菜園らしきものを作った。ただし、11～3月の冬場は、なにもできなかった。カモミールが種こぼれで毎年育ったことが記憶にある。ゴーヤも試してみたら、数個実った。

現在地の玉城は土地の傾斜度が20度ぐらいであり、また基盤がクチャであり、表土は数センチしかなく、野菜が育つような条件はなかった。だから土づくりなど準備作業に時間がかかった。土づくりの基本は、敷地内の枝葉など有機物をすべて土のなかに敷きこむことだった。コンポストも4個購入して、堆肥づくりをした。そして、10年たって、表土が30センチ近くなり、野菜づくりができるようになる。しかし、そのころには、植えた果樹を中心にした樹木が育って、野菜を育てる地面に日が差すのが少なくなってきた。加えて条件のいいところはハーブや薬草育ての場所にしたので、野菜を育てる余地はどんどん狭くなった。

この9月10日で、玉城生活満14年になったが、この間、いろいろと試みた。植えた野菜の種目だけは多い。ともかく作ったものを、この連載で紹介する現在育てているものを除いて並べてみよう。

大根 きゅうり ゴーヤ ナーベラ サツマイモ ブロッコリー アスパラガス パパイヤ みょうが セロリ



ふだんそう キャベツ 人参 ジャガイモ・・・

当初の10年間は、収穫物をもし購入すればいくらになるか、ということで計算すると、種苗代をはじめとする支出額に届くところまでいかない、というのが率直なところだ。つまり全く採算が取れないのだ。

そこで、2015年ごろから、野菜育てはベランダを中心に始めた。それでも、数坪の露地で、ウリズン豆、ラッキョウ、ニラなどの野菜も少しだけ作っている。

こうしてようやく、日常の野菜消費の2～3割は収穫できるようになった。ほとんどが葉野菜なのだが。

次回から、種目ごとに紹介していこう。

写真はベランダ風景



2018年09月11日

ナンテン ムラサキオモト イオニマス

サニーフォスター 観葉植物24最終回

ナンテン (左写真)

愛知の赤池でも育てていた。ここでも育てているが、愛知のようにうまくはいかない。土地や気候の条件があるのだろう。でも、それなりに育っている。眼が不自由なマッサージ師さんがとても関心を持っておられたので、

苗を店で見つけてきてあげた。時代劇のラジオドラマで興味を持たれたようだ。触れながら育てて楽しんでおられる。

この苗がいつ店に出るか不明だったが、12月末に出会った。正月用として売り出されたようだ。縁起物なのだ。

ムラサキオモト (右写真)

いただきものだ。繁殖力旺盛で、庭畑のあちこちで繁殖している。庭畑の縁取りなどに有効だ。



イオニマス (マイクロフィライエロー) (下左写真)

数年前に、苗の美しさに惹かれて植えた。目下観察中だ。

サニーフォスター (別名 西洋ひいらぎ) (下右写真)

これも数年前に植えて、目下観察中だ。

今回で観葉植物連載を終える。合計すると、70種近くになった。観葉植物がこれほどになるとは全くの想定外だ。これからも長い付き合いになりそうだ。



2018年09月05日

金煌マンゴーの伐採

ここに住み始めて以来のお付き合いも終わりだ。土地の前所有者が植えた珍しいマンゴー。当初から大きかったが、いまでは巨大化した。だから、伐採するにも時間がかかる。6月ごろから始めたが、今月中に終わらせない。



金煌マンゴーは台湾の人が開発したと聞いている。実は普通の種類より大きく、表面は緑のまま熟するが、味は普通のよりも良いと思う。しかも、ビニールをかける必要なしだから、育てやすい。

だが、巨大化して、周りの日照を奪ってしまった。ここ14年間で、一度だけ300個も収穫して驚いた。いろんな方に差し上げた。だが、収穫できるかな、という年に限って台風で全滅。ということで、年に数個～0個で推移してきた。



ものの。中央に広がるのがそうだ。

伸びるに任せていたころ、高さ5メートルを越し、我が家の主木にしようと思論んでいた。しかし、管理不能になりそうだったので、高さ2～3メートルくらいで抑えてきた。それでも、管理不能状態になってきたので、ついに伐採を決断した。チェーンソーで少しずつ作業してきた。ということで、最終段階になってきた。切り株は椅子にでもしようかと考えている。

左写真は、2015年9月末に三階ベランダから撮影したもの。

左写真は、2015年9月末に三階ベランダから撮影したものの。中央に広がるのがそうだ。

2018年09月04日

マッコウ (ハリツルマサキ) カルーナ

ギボウシ 観葉植物23

マッコウ (ハリツルマサキ)

沖縄に住み始めた40年以上前に、義兄が可愛がっていたのを見て、美しいなあ、と思ったのが最初の出会。それから、いろいろと付き合いってきたが、ここ我が家で





は、あちこちに自生している。こぼれ種からどんどん広がるからだ。現在20本ぐらい育っているのかな。日当たり、日陰、岩場、畑土、いずれでも、それに応じて形を変えて育つ。

盆栽愛好家も多い。

カーナ（上左写真）

昨秋のオープンガーデンで催された寄せ植え講習で、初めて出会った。大きくなって、鉢植えから地植えに変えた。まだ何者かよくわからないので、観察中。夏の暑さのためか、今は元気がない。

ギボウシ（上右写真）

植えて半年くらい。まったく知らない植物。名前にひかれて植えた。観察中。これまた夏の暑さのためか、今は元気がない。

2018年08月26日

ミルクブッシュ ヤブコウジ ハツユキカズラ ツルニチニチソウ 観葉植物22



ミルクブッシュ

10年以上前にプレゼントされたもの。だいぶ前から、観葉植物をプレゼントするのが流行のようだ。

名称不明のまま、ブログに掲載したら、ある方が、名前を教えてくださいました。こんなことが数度あった。

枝を切ると、ミルクのような白い汁が出るので、こういう名前になったようだ。現在高さが2メートルを超えている。挿し木が容易そうなので、試みたら、簡単にできる。現在、他に2~3本育てている。すぐに大きくなる。写真は、上から撮影したもの。

ヤブコウジ (右写真)

10年以上前に苗店で買った。かなり広がっている。全く地味だ。



ハツユキカズラ (中左写真)

数年前に苗店で買った苗を植えたら、大きく広がり、今ではほとんど切っている。新葉が美しく「初雪」のようだというので、この名前になったようだ。

ツルニチニチソウ (中右写真)

日日草とは関係がなさそうで、花が似ているというだけのようだ。他の植物と競争状態のなかで、維持するのが精いっぱい状態だ。



2018年08月20日

ガジュマル・マンゴー伐採 来客・ユンタク

先週は、息子家族が滞在して孫たちで賑やかになるはずだったが、搭乗便欠航のため来られず。静かな週になりそうだった。しかし、拙著を読んで質問があるということで、わざわざ沖縄出張の折に我が家を訪問なさった政府機関高官、そして卒業生一行の訪問でほぼ30年ぶりの再会・ユンタク、ということで賑やかな週末となった。

いずれも実のあるユンタクで充実しまくりだった。

今週は、本格的にスケジュールなし。静かに盆を迎えるだけだ。

このところの、私の庭畑仕事は、いつもとちょっと様相が異なる。一つは、ベランダの手すり脇の板が腐食してきた



ので、取り換えのため、新しい板を購入し、それにニス塗る作業。おそらく生まれて初めてのニス塗作業。店で教わった通りにする。ニスが余ったので、恵美子の要請で、ニスがはげた階段などの補修。



もう一つは、巨大化していくガジマルの伐採作業。我が家スタート時点で大岩のうえに芽を出し、高さ1センチぐらいだった。その後、高さ6メートルを越し、剪定を続けてきた。生後14年なのに、太くなっているの、伐採に一月余りかかった。この後、ベンチにするかどうか、いろいろと思案中。切った太い幹の活用についても思案中。

もう一つは、これまた巨大化した金煌マンゴーの伐採作業。前土地所有者が植えたもので、樹齢は20年を超えるだろう。これまた半月かけて、枝を切り落とす。この後、幹を伐採して、その後どうするか思案して新作業へ。

ガジマルにしてもマンゴーにしても、これ以上放置していたら、私の手に負えなくなる。

こんな風に伐採しなくてはならない木が、つぎつぎに登場するだろう。これが森に住むことの功罪ともいえるだろう。



2018年08月18日

ユーフォルビア・ダイヤモンドフロスト

ユーフォルビア・ラクティア ダイギン

リュウ 観葉植物21

ユーフォルビアというのは不思議な仲間だ。私が育てている二つのユーフォルビア、つまりダイヤモンドフロスト、そしてクリスタータ・ラクティアは、似ても似つかないものだ。全く異なるから、まさか同じ仲間だとは、思いつきもしなかった。



ダイヤモンドフロスト (右写真) は、小さな可愛い花をぎゅっと咲かせる。写真は、季節柄小さいが、涼しくなると満載状態に咲く。

ラクティア (一番最初の写真と下写真) は、何度も紹介したが、我が家の敷地購入の際に、お世話になった不動産屋さんとオープン・ガーデンのときにばったり出会って、いただいたものだ。彼は「サンゴサボテン」と名付けてい



たが、正体をインターネットで調べていって、ユーフォルビア・クリスタータ・ラクティアであることが判明した。最近では、マハラジャという商品名で販売もされているが、一枝だけで、数千円という価格には、超驚いた。それで計算すると、我が家のものは数万円以上の価値がありそうだからだ。

そして、挿し木で殖やすのは難しいとも書かれている。しかし、いただいた時も、挿し木で育てたし、今も3~4本、挿し木で育てている。失敗はしていない。

ダイギンリュウ (ペディランサス・ティシマロイデス)

これも、来客からいただいたもので、3本が育ってきた。最近、挿し木で殖やし始めた。これもユーフォルビアの仲間だというのには驚いた。これは2種育てている。

1) スモーリー (下左写真) 普通のダイギンリュウ。日陰だと緑色の葉だが、日当たりがいいと、赤味がかってくる。



2) ナヌス (前ページ下右写真) これは長い間、正体不明のままだったが、最近ようやくインターネット情報で判明した。これまで日陰で育てていたが、日当たりを好むというので、最近移植した。

2018年08月10日

カシノハウラジロ ツワブキ リュウキュウツワブキ 観葉植物20

今回からは、参照している書籍には掲載されていないもので、私が観葉植物だと思うものだ。

南城市のオープンガーデンの際に開かれる植木市がある。そこで顔なじみになった沖縄市の苗木屋さん夫妻がいる。森の珍しい日陰植物を扱っておられる。イトマンの道の駅にも出品しておられる。



カシノハウラジロ (中写真) は、そこで買った。なかなか美しい。植えて2年近くたち定着したようだ。美しい葉が続々と出てくる。

リュウキュウツワブキも、そこで買ったものだが、普通のツワブキと比べると、小ぶりの可愛いものだ。その店から、連載第7回で紹介した、オオタニワタリの変形も買って植えた。

する。

普通のツワブキ (下写真2枚) は二つ育てている。条件のいいところではないが、しっかり育っており、冬には開花



ヤシ類 観葉植物19

我が庭畑のヤシ類は三つ

まず、トックリヤシモドキ (右写真)

ヤシのなかで、一番美しい姿だと、私は思う。ずっと以前から植えたいと思っていたので、この住居が完成したときから、苗を探し続けた。一年ぐらいで見つけて、玄関アプローチ脇に植えた。一度、害虫にたべられてヒヤッとしたことがあったが、木酢液で駆除した。その後元気よく生育。幹が美しくなってきた。徳利のように太めになってきた。

一年に4枚ぐらい新葉を出し、7~8枚になったところで、古い葉が落ちるというサイクルだ。一年で20センチぐらいずつ伸びる。現在、高さ3メートル余りだ。あと5年ぐらいすると遠くからでも目立ち始めるだろう。



次はマニラヤシ (左写真)。葉が自然に落ちるので、高くなっても世話がしやすい。スラーツとしている。これも、我が家スタートから2~3年のうちに買って来た苗を植えたもので、今では高さ4~5メートルになる。建物の西側で、隣の森近くに植えたので、日当たりはよくなった。それでも元気よく伸びて、高くなったので、日当たりが徐々に良くなる。10数枚の葉をつけており、一年半ぐらいで、葉が落ちる。

三番目は、アレカヤシ (右写真)。植えた場所には、最初はワシントンヤシを植えていたが、定着に失敗したので、隣から苗をいただいた。生育するにつれて、アレカヤシであることが分かってきた。30年前の小波津団地時代にも育てていたものだ。脇から、新しい芽がどんどん出てくるので、3本を残して切っている。一番大きなものは、高さ3メートルぐらいだ。他は1メートルぐらいだ。今は、ビワ、ライチ、千年木に囲まれて目立ちにくいですが、そのうちまわりから抜きんでて見えるようになるだろう。





ポトス ホヤ (サクララン) モン
テスラ 観葉植物 18

モンテスラ (左写真)

以前にも育てたが、消滅寸前なので、2017年に新しい苗を植えた。元気よく伸びて、高さ1メートルを越した。切れ目が入った大きな葉が美しい。

ポトス (中左写真)

この敷地に10年以上にわたって繁茂している。繁茂しすぎなので、日常的にどんどん切っている。一枚の葉で30センチをこえるものがザラだ。グランドカバーにもなるし、壁面緑化にもなる。繁茂しすぎるのが問題。



ホヤ (サクララン) (中右写真)

数年前から、着生ランのように育てている。ランの仲間ではない。でも、きれいな花が印象的。殖やしていこうと思っている。



2018年07月13日

フィロデンドロン・ライムライト ハン
ギングヘリクニア ペペロミア 観葉
植物 17



フィロデンドロン・ライムライト（前ページ下写真） 苗店では、「ライムライト」という名札だけで、どんな植物かがわからなかった。かつてに推理してブログに書いたら、読者の園芸専門家の方が、フィロデンドロンであることを指摘してくださった。ありがたいことだ。那覇空港の通路のプランターにも置いてあるものだ。

2017年に二つの苗を植えたが、双方とも元気よく生育している。

ハンギングヘリクニア（上左写真）

これまた、つい最近までストレリチャであると思い込んでいたが、図鑑を見ていて、ハンギングヘリクニアであることを知った。

10年以上前に贈られたものを露地植えにしたら、ぐんぐん伸びている。今や高さは3~4メートルになり、毎年何十もの、新しい芽がでてくるので、間伐している。

赤くて不思議な形の花？が強烈な印象を与える。

ペペロミア（上右写真）

2017年に初めて植える。順調に生育している。

2018年07月06日



パキラ ピレア フィットニア 観葉植物16

パキラ

2017年に苗を植えた。日陰気味だったが、おおっている植物を取り除いたら、急速に伸び始めた。

浅野誠 庭畑2018年

ピレア (アルミニウム・プランツ)

2~3年前から、苗を植えて育てている。これはおそらく、カディエレイというものだろう。

中左写真だが、随分タイプが異なるものも、ピレアの名札を売られていたので、育てている。グランドカバーとして、殖やしつつある。これがピレアなのかどうか疑問に思ったので、ウェブで調べたら、ヌンムフォラリアというものに近い。現在、順調に広がり始めている。



フィットニア (中右写真)

数年前から育てている。日陰でグランドカバーのようにして育てている。少しずつ広がっているが、成功したとまではいえない。



2018年06月27日



ディフェンバキア デュランタ (タイワンレンギョウ) キバナタイワンレンギョウ 観葉植物15

ディフェンバキア
緑色の葉と太い茎が美しい。



挿し木でどんどん殖やしてきたが、20本以上になっている。

地下茎?でも自然に殖えていく。殖やすのはおしまいにしようと思う。

デュランタ (ハリマツリ タイワンレンギョウ) (上左写真)

とても美しい紫色の花を大量に咲かせる。我が家自慢の木になっている。そのうち一本は高さ3メートルを越す。

キバナタイワンレンギョウ (またはキバタイワンレンギョウ) (上右写真)

花が黄色だし、葉も黄色っぽい。近年、あちこちで見かけるようになった。数年前、台風で根元から折れて倒れたが、また復活し、今では高さ3メートルを越す。

参照している本では、ハイビスカスも観葉植物となっているが、私のイメージでは観葉植物ではないので、この連載では掲載しないことにする。

2018年06月22日

レモンティートリーの開花

4、5年前に植えたレモンティートリーが育ってきて、初開花した。



レモンティートリーは、ティートリーに似ているが、全く異なるもので、ティーにもできるハーブ



だ。

2018年06月16日

セダム 蘇鉄 チランジア 観葉植物14

セダム 2種類

つきあいは短くないが、よくわからない植物の一つだ。最初のものは、失敗だった。次に植えたものは、大変繁殖力が強いもので、ブーゲンビリア、サンダンカ、オーストラリアン・ローズマリーの根元のグラウンドカバー役をしっかりと果たしている。接するタマリユと勢力争いを演じているほどだ。

もう一つは、最近植えたものだ。まだよくわからない。



蘇鉄

この土地を取得したばかりの時に、蘇鉄の赤ちゃんを見つけたので、敷地端に植えておいたら、随分大きくなり、2メートルほどの高さになっている。他にも、赤ちゃんに気づけば植えておいた。

でも殖え過ぎ気味なので、最近は根元から増えてくるものや、他の植物を圧倒しそうなるものをカットしている。

花もよく咲くが。なぜか雄花ばかりだ。今年も、雄花が一つ大きくなってきている。花の成長観察が結構楽しい。



現在、我が敷地には、10本ほど育っている。今年も、新葉が虫に食われるも



浅野誠 庭畑2018年

のが多い。

チランジア（前ページ下右写真） 土なしで空中でも育つとか言われ、人気が出ている。価格もずっと安くなり、手に入れやすい。

以前にも育てたが、失敗した。世話せずに放置していたためだろう。現在は、中庭の小岩の隙間に置いている。取得してから半年ぐらいなので、どうなっていくかを楽しみに見ている。少しずつ成長しているようだ。

2018年06月15日

新しいハーブ活用への挑戦 少しずつ ハーブソルトやペイストなど

5月記事で紹介した嵩西洋子『南の島のハーブ』（南山舎2018年）には、ハーブ活用の様々な実例が満載だ。私のこれまでは「ハーブティー活用に尽きる」という感じだったので、同書に導かれて料理を始めとする新しい活用法に挑戦し始めた。

ボググセージの花でサラダを飾る（同書95ページ）

5月からボググセージの満開が続く。これまでは、防虫向けに他のものと一緒に乾燥させて、衣装箱に入れるくらいだった。本書には、美しい花を野菜サラダに散らすアイデアがあったので、やってみた。写真参照。味というよりも美しい花の気分を味わう。



ハーブソルト（同書116ページ）

塩を使う時に、ハーブの味と香りが加わると、浮き立つ。好みのハーブを乾燥させて細かくして、塩と混ぜる。たまたま岩塩があったので、それを使う。タイムをはじめ10種類ほどのハーブを入れ込んだ。

ハーブペイスト（同書79ページ）

オリーブオイルを使ってペイストを作るのは、2回目だ。数年前にオレガノができすぎて困ったときに、近くのカフェレストラン「ビーンズ」の方に教わって、オレガノペイストをつくった。

今回は、何種類ものハーブを混ぜたが、クミスクチンを入れたのが、一つの特徴。クミスクチンがこのような活用できるとは思いもつかなかった。このペイストをスパゲッティに入れるなど、恵美子が活用し始めた。

アシタバ（同書114ページ）

アシタバの栽培は何度か試みたが、失敗続き。沖縄では日陰がいいことを知って、今年は初成功。しかし、使い道がわからない。同書では「千切りしてサラダなどに利用」とある。その通りにやってみる。不慣れなので、不思議な印象。慣れてくれば、いろいろと書けると思うが。

2018年06月08日

タマシダ シダ類 イワヒバ 観葉植物13

ネフロレピス (タマシダ)

植え始めて2年ほどだが、どんどん伸びる。株分けして別の個所に植えたが、すぐに活着する。広がり過ぎて、隣接する植物まで覆いそうな気配だ。



名称不明 (中左写真)

姿・色の美しさが気に入っている。苗店では、「シダ類」というタグをつけてある。名称を知りたいものだ。



イワヒバ (中右写真)

2年ほど前植えたが、一応は生きている状態。隣のタマシダに覆われそうになったので、別の所に移植した。

思い出がある。30年以上前、北九州市の平尾台の小学校で授業をしたことがある。僻地小規模校で、全校児童十数名を相手に集団遊びをした。感動的な展開になった。終了後、一人の子どもがおみやげをくれる。近くにあるイワヒバのプレゼントだった。うれしかったが、うまく育てきれなかった。

今回は、なんとか、育てたいと思う。



2018年06月01日

スパティフィラム シッサス シペラス 観葉

植物12



スパティフィラム(前ページ下写真)
かなり以前から育てている。繁殖し過ぎたので、昨年、株分けして3



ヶ所に植えた。水芭蕉に似た白い花が印象的だ。

シッサス(上左写真)

10年以上前に、枝を鉢に挿し木した。大きくなってきたので、地植えにする。大きく伸びて高さ10メートルに至る。1階から3階までの日よけとしても活躍する。つる性なのだが、気根のような赤い根が美しく伸びるのが、この植物のウリだろう。白い花はそれほど目立たない。

繁殖力旺盛過ぎて、2年ぐらい前に、8割ぐらいカットした。カットして捨てた枝葉からも伸びてくるほどだ。

シベラス(上右写真)

別名シュロガヤツリグサということだ。このあたりでは雑草のように、どこでも生育している。その一本を畑の隅に植えてみた。順調に伸びている。

2018年05月30日

ライチとパッションフルーツの収穫

ライチは、毎年今頃から一週間ほどが収穫時期。今年は豊作。300個ぐらいだろうか。今年のはじめて袋掛けをした。いつもだと、鳥に食べられるのが三分の一。今年は少なくてすみそう。匂いに気づいて鳥が食べるのを防止しているのだろうか。



いつもの通り、おいしい。保存がきかないので、食べたい方は、6月10日までに来てください。

パッションフルーツは、我が畑史上最高の豊作。今日から食べ始める。表面にしわが広がってきたら、食べごろだ。写真は、鈴なりの実。

開花から50~60日で食べごろになる。4月から5月初

浅野誠 庭畑2018年

めに開花したものだから、遅いものは7月初めに食べごろを迎える。これまた300個を越しそうだ。3本の苗で育てているので、沢山出来る。秋に開花し冬に食べるものも、毎年結構な量になる。

アセロラも実が赤くなり始めた。

カニステルも花芽をつけ始めた。収穫は年末以降になりそう。

バナナは、一房が7~8月収穫になりそうだ。その子どもの苗を最近移植した。



2018年05月24日



コーヒーノキ コレウス シェフレラ

観葉植物11

コーヒーノキ

我が家への来客のほとんどが、コーヒーの木が育っているのに驚く。しかも、収穫した豆でコーヒーを飲んでいるという話にも驚く。

そこまでの歴史

- 1) ここに引っ越したそうそう近所の方から苗を三本いただく。地植えにしたが、それなりに生育するにしても、元気がない。
- 2) ヤンバルにドライブした際に、東村高江にあるコーヒーを栽培し、カフェをしているところで、コーヒー栽培のアドバイスをいただく。
酸性土。日陰。湿気を好む。など
我が家の土はクチャ（そして、有機物が入ってクチャが風化したジャーガル）で、アルカリ性なので、土壌改善が不可欠なのだ。
- 3) 鹿沼土とピートモスを入れ込んだ畑に植え替える。今でも年に一回ぐらいそれらを補充している。さらに時々、木酢液をかけている。
- 4) それ以後、順調に生育し始める。数年たって、開花→実がつくようになる。
- 5) 数年前から、収穫できるようになる。収穫量が増え始め、2018年には数十杯のコーヒーが飲めるようになる。
- 6) 2018年には、実を植える実験。何本か育つ。おすそ分けもしたが、我が畑でも一本を植えてみる。
- 7) 現在4本が生育中で、豆を取れるものは2本。今春は3本目が開花している。
- 8) 我が家の需要を賅えるようになるには、さらに10年近くかかりそうだ。年々殖やしていくつもりだ。畑の木々が大きくなり、日陰が増えているので、コーヒー栽培には好都合だ。



コレウス (上左写真)

10年ぐらい前に親戚からいただいたものを育てるが、手入れもしないで放置消滅。

2018年11月、苗店がする寄せ植え指導で、コレウスを育て始める。色違いの3種。

順調に育ったので、庭畑のあちこちに株分けして植える。ほとんどが順調過ぎるほど育つ。庭畑の隙間に植えたので、隙間を隠す役割で大活躍だ。

シェフレラ (上右写真)

ホンコンカポックとかカポックとも呼ばれるようだ。

苗を植えて一年余りだが、順調に生育しており、現在高さ50センチくらいだ。今年中に1メートルを越しそうな気配。

先日、一枝が虫に食われたが、そのままにしておいた。一か月ぐらいして何事もなかったかのようにになっている。

2018年05月18日

嵩西洋子『南の島のハーブ』(南山舎2018年刊)

を読む

店頭で見つけて購入。私にとって大変有用だ。

「西洋由来のハーブ」だけでなく、沖縄由来の薬草など、実際に生育しているもの337種がのっている。それらには、栽培しているものだけでなく、地域に自生しているものもある。だから、我が家または我が家周辺でも、100種類以上は出会っており、その気になれば活用できるものは多そうだ。

わかりやすく親しみやすい本だ。他にも、沖縄のハーブ・薬草に関しての本があるが、これほど有益で簡便な本は見つけにくそうだ。



浅野誠 庭畑2018年

なによりも、活用法、とくに料理活用法が参考になりそうだ。我が家で大量に育っているクミスクチンの薬草茶以外の料理活用方法もものっていて有難い。

膨大な中身なので、本書に書かれているアイデアを少しずつ試してみようかという気持ちになっている。最初はハーブソルトを作ってみようかと思っている。しかし、これらのアイデアを生かすには、10年以上かけても無理そうだ。

与那国育ちで石垣で生活している人なので、八重山でのものが中心だが、私が住む沖縄本島との違いは少ない感じだ。娘さんを亡くされたことが大きな転機になっておられるようだが、私とも共通するものがありそうだ。

ピパーツの名付け親だそうだ。私も最近育て始めた。

いろいろと役立てていきたい。

2018年05月17日

ゲッキツ 月桃 観葉植物10



ゲッキツも月桃（サンニン）も、植えたわけではなく、自然に育っている。このあたりではごく普通にみられる。ムーチーの季節に、月桃を採取しに来る人もいる。だから、ムーチーバともいう。

月桃（さんニン）（上写真二枚） 薬用効果を活用している。種も効果が高いとのことだ。薬草茶・薬用種・防虫剤。息子が、与論島の人たちと活用の研究をしている。

花がすばらしく美しい。

ゲッキツ（右写真） 香りがいい。強剪定にも耐えるので、盆栽にする人もいよう。我が庭畑では、数か所に育っている。日陰でも問題ない。



2018年05月07日

カランコエ セイロンベンケイ クラッスラ(金の成る木) ハナキリン 観葉植物9

カランコエ (中左写真)

長く付き合っているが、手入れをせずに放置してしまうことが多いので、何度も枯らしてしまった。現在のものも植えて半年ぐらいだ。

強烈な花色で、印象的だ。熱帯を感じさせる。

セイロンベンケイ (中右と下左写真)

これがカランコエの仲間だとは知らなかった。ハカラメというそうだ。これは、2種類育てている。ともに我が庭に長らく生育している。落ちた葉から簡単に芽を出すので、処分することが多い。



冬場に咲く花がなかなか面白い。初夏の今は、茎葉の成長期

クラッスラ(金の成る木) (下右写真)

育てるのは、2度目だと思う。現在のものは数年前に植えたが、順調に大きくなってきている。名前が変だが、金銭





がなるというイメージはどうも馴染めない。

ハナキリン

以上は、ベンケイソウ科だが、ハナキリンも似ているので、そうかなと思ったら、ハナキリンはトウダイグサ科だとのこと。

40年ぐらい前から付き合っているが、現在のものは、2、3年前に植えたもの。

2018年05月01日

花々の世界 我が庭畑のこのごろ

すっかり陽気が私好みになってきて、我が庭畑の植物も喜んでいる。蝶々が飛び回っている。オオゴマダラも顔を見せる。無論、鳥も多いが、繁殖の季節だ。今年も庭畑の木々の中で巣作りを始めているだろう。

果樹では、ピタンガ収穫が終わったが、パッションフルーツ・ライチ・マンゴー（写真）が実を大きくし始めた。特に、豊作になりそうなパッションフルーツは、5月半ばには収穫スタートだろう。アセローラ・バンシルーも開花している。



花々も次から次へと登場してきている。

ボッグセージ（下左写真）





キキョウラン (前ページ下右写真)

チェリーセージ (上左写真)



ユリ (上右写真)

着生ランも、開花が続いている。(中左写真)

ソングオブインディア (中右写真)

いい季節だ。来客も庭散策する方が多い。ただ、蚊・アリが増えてきている。ミント類での対策効果もあるが、それでも、なかなか大変だ。

2018年04月30日

クワズイモ(アロカシア) オリズルラン 観葉植物8



クワズイモ(アロカシア) (上左写真)

沖縄の森では至る所でみられるものだ。大都市の花の店で、結構な価格で売られているのを見て驚いた。これもまた観葉植物であることを知った。

我が家でも、あちこちに出てくる。処分することはしばしばだが、植え付けたことはない。

クワズイモのイモを食べる実験をした人がいて、やはり「食わず」だと語ったという話を聞いた。

オリヅラン (上右写真)

姿が美しいので、好まれるようだ。すごい繁殖力なので、わが庭ではグランドカバーにしたり、欄干にとりつけた鉢に植えて、垂らしたりする。そこから出てきた新芽から、また伸びる。しばしば処分するほどの繁殖力だ。

2018年04月17日

オオタニワタリ(アスプレニウム) アロエ 観葉植物7

オオタニワタリ(アスプレニウム) (下左写真)

ここに住み始めたころ、近隣の人と植物交換でいただいたものを植えた。その後どんどん殖えた。殖やしたのではな





く、殖えたのだ。胞子が飛んで落ちた所で成長するからだ。庭畑に 20~30 本ぐらい成長しているだろうか。手入れは枯れかかった下葉を取るぐらいだ。

姿がとつても美しい。そして山原の森のような自然の雰囲気を出すのが好まれるのだろうか。新芽が食材になるとのことで、一度試したが、それほど美味しいとは感じなかつた。何かの薬にもなるようだ。

最近、突然変異で、縮れた葉のものを売っていたので、それも植えてみた。(前ページ下右写真)



アロエ

つきあいはじめから長い40年を超す。別名医者いらずといわれるもので、いろいろと使ってきた。一番使ったのは、鼻うがいの液を作るためだ。

三種育てている。まず鑑賞用として手にいれたものだが、名称不明のまま、40年付き合っている。ロゼット状で、地面に広がる感じだ。(上左写真)

キダチアロエ(上右写真)は、広く知られたものだ。これも40年近くの付き合い。

アロエベラ(中写真)は、10年余りの付き合い。宮古島では農産物として販売されている。それに比べると我が家のものは三分の一ぐらいの大きさか。

2018年04月10日

アグラオネマ アスパラガス 観葉植物6

ここからは、連載のはじめに紹介した本でアイウエオ順に出てくるものに沿って紹介していこう。



アグラオネマ

まずアグラオネマ。植えて1年余りしかたっていない新顔だ。シルバー（本によると、シルバー・クイーン）のものと赤味がかかったものの二種類育てている。

どんな風に育っていくか楽しみにしている段階だ。

アスパラガス

10年近く前から野菜として育ててきた。結構な価格の苗だが、なんとか収穫もできるようになった。収穫したては、そのまま生で食べても美味しい。

しかし、畑が果樹に覆われて、日当たりが悪くなり、生育の勢いが止まり、収穫できなくなっている。時々新芽がでてくるのを楽しむぐらいだ。

これが観葉植物である事に気付いたのは最近のことだ。収穫しないでそのまま伸びてきた新茎葉が美しいからだろう。茎葉は高さ2メートルまで伸びる。上手く整理しないと、広がりすぎて困るほどだ。ヘルシンキの植物園で、観葉植物として育てていたのを思い出す。

2018年04月07日



満開近づく ティートリー オクラレルカ アマリリス

このところ、降水量異常のため、水不足の心配が浮上。でも、木々、花々は元気。

ティートリー（左写真）・オクラレルカ（次ページ上左写真）・アマリリス（次ページ上右写真）が咲き始めた。今は一分咲きといったところだが、中旬は満開の日々だろう。



タイワンレンギョウの花もたくさんになってきた。(中左写真)

着生ランも、花が終わったものもあれば、咲き始めたものがある。



ビワの収穫も最後に近づいた。今年は、数百個の収穫でき、なぜか鳥に食べられたものがほとんどない。扱いに慣れてきたのだろうか。我が家で食べるだけでなく、沢山のかたに差し上げられた。

ビワと交代のようにして、ピタンガの収穫が始まった。(中右写真)

今年は、なぜかパッションフルーツが実をつけるのが早い。7日でいうと、20個以上の人工授粉をした。5月下旬には収穫開始になりそうだ。同じころ、ライチの収穫も始まりそうだ。マンゴーの実も確認できるようになってきた。

2018年04月01日

サンセベリア(トラノオ) クロトン 観葉植物5



サンセベリア(トラノオ)
これまたリュウケツジュ科なのだ。驚いた。我が家のできた



2000年代半ばころ、マイナスイオンを出すというので、とても流行したためか、贈り物としてたくさんいただいた。庭畑のあちこちに地植えにした。おそらく200~300株以上になっているだろう。

細長いものと背の低いものの2種が我が家にはあるが、ほとんどが細長いものだ。

葉でも地下茎でも、なんでも土を少し掘って植えておけば定着し、地下茎でどんどん殖える。強力な生き物で、あちこちから出てくる。足が踏みつける通路でも地下茎から伸びてこようとする。

それにしても、姿は美しい。他府県では高価だが、我が家では、タダそのものだ。とても地味な花が咲くが、知らない人が多いようだ。



クロトン

沖縄のどの庭にもあるといえるほど普及している。これまた挿し木で簡単に殖える。垣根としても育てられる。

種類の多さもすごい。葉の色の鮮やかさや葉の形が魅力だろう。

我が家では、4種育てている。黄色2種、葉が丸っこいものと細長いものがある。他に赤と茶とのまだらの一種。緑の一種がある。いずれも数本育てている。写真のものは高さ4メートルです。バリ島を訪問したとき、沖縄のものより一層大きなものを見た。生育環境がいいのだろう。

2018年03月23日

トックリラン リュウゼツラン 観葉植物4

トックリラン

公園などあちこちで見かける。結構背が高くなる。根元が大きく膨らむ。知人の庭では、直径1メートルを越すほど



だ。その美しさが気に入って、2年前に苗を二本買って育て始めた。まだ膨らむほどには至っていない。これからを楽しみにしている。

リュウゼツラン

近隣と植物交換して植えたもの。以前にブログに載せた写真を見て、読者にリュウゼツランであることを教えてもらった。本では、似たものとしてユッカが出てきたが、ちょっと異なる。ウェブで調べたら、やはり、リュウゼツランだ。

育て始めて10年を越し、脇から新しいものが何本もでてきたので、株分けして育てている。近隣で開花したものを見た。珍しいので、新聞にも載った。そこまで育ったらいいな、と期待する。右写真は、根元に見えてきた幹。



リュウケツジュ科とリュウゼツラン科は近くて、分類の統合分離などがあるようだ。

2018年03月19日

ビワ収穫開始 コーヒー植え 着生ラン開花 ティートリー開花へ バナナ開花 庭畑の近況

暖かくなって、庭畑の植物が生き生きし、鳥たちも喜んでいる。たくさんのメジロが目立つが、写真撮影は難しい。ビワが収穫を迎えた。これまでになく大量だ。袋掛けを、50余りした。もう少し必要だ。一袋には4～5個の実が入っているので、総計200個ぐらいか。早いのを食べてみた。結構いける。収穫盛期は、3月末になりそうだ。



昨年、種からポットで育ててみたコーヒー苗を、一本、地面に移植した。定着するのを期待する。現在、数枚の葉をつけている。育てば、現在大きくなって収穫にまで至っている3本について、4本目だ。



着生ランの二つ目が開花した。可愛らしい花だ。他に二種がつぼみ状態だ。(上右写真)

中左写真のティートリーも新緑に彩られてきた。先端に花芽が付き、開花になるのは、4月に入ってからだろう。写真左の赤いのは、マンゴーの花

バナナが大きな花芽を出す寸前だ。4月には開花し、8月ころ実を収穫できるだろう。

2018年03月15日

ドラセナ 観葉植物3

リュウケツジュ科を続けよう。今回は、ドラセナの仲間

本書にてくるもので、ドラセナの仲間と判定できるものは、次の5種類



フラグランス・マッサンゲアナ (上左)
幹も葉も美しい。



マルギナタ(以前はコンシンネと呼ばれていたとある)。我が家には、赤いのと緑色の2種類ある。(上右と中左)



緑色のものは、高くまで伸びる。そのうちの一本は、現在4~5メートルになっている。写真は、そのてっぺん部分だ。一年ぐらいたると葉が落ちるので、細長いが図太い感じさえする幹も美しい。

赤いのも美しい。赤いといっても、緑がかってはいる。



デレメンシス「ウィレンス・コンパクト」 背が低い。植えて何年もたつが、20センチぐらいだ。(中右)

デレメンシス「レモンライム」 昨年、名前にひかれて、植えてみたが、まだ、よくわからない。(左)

追記・・・よせうえやさんがとても有用なコメントをしてくださいました。私の誤りで、フィロデンドロン・レモンライムが正しい名前です。

これらも記念品でいただいたものが多い。それを挿し木にし

浅野誠 庭畑2018年

て殖やし、庭畑のあちこちで育てている。特に上の三つは、沢山育っている。

2018年03月05日

コルディリネ ソング・オブ・インディア 観葉植物2

リュウケツジュ科を紹介していくが、千年木以外のコルディリネから始めよう。我が家では、記念品としていただいたものがスタートで、2種類ある。葉の色が赤味がかかったもので、同書によると、フルティコサ“レッド・エッジ”（ウェブで見ると、コルディリネ・ターミナスという名前が一番近い）、そして緑と白が混ざったもの、フルティコサ“クリスタル”だろう。

あちこちに植えているが、挿し木で殖やしたから、現在何本あるか不明だが、20～30本ぐらいあるだろう。挿し木で簡単に殖やせるのだ。



大きさは、千年木よりはるかに小さい。千年木に慣れているものの眼には「ひよわさ」さえ感じさせる。室内装飾品として楽しむのに好都合だろう。しかし、我が家では、地植えかベランダの鉢植えにしている。

ソング・オブ・インディア

我が家に、数えきれないほど育っているが、本にははっきりと出てこない。そこでウェブのサイトで調べたら、リュウケツジュ科ドラセナ属のレフレクサ「ソング・オブ・インディア」であることが判明。近隣でもあちこちにあふれているし、農園でも栽培している。



生育力盛んで、枝を切って差すだけで殖える。垣根にも使い始めている。

このほかに、ドラセナ属は我が家にいくつもがあるが、次回紹介しよう。

2018年03月01日

メイフラワー開花 着生カトレア開花 2

本目のホワイトサポテ植える

春めいてきた。庭畑も春の顔をはっきり見せ始めた。

まずメイフラワーの開花。木が年々大きくなるので、花の量も大きくなってきた。上旬いっぱいには花見気分が続きそうだ。



カトレアの開花（中右） 着生ランを初めて数年たつ。最初に開花したのがこのカトレヤだ。クルチの枝分かかれのと



ころで、年々大きくなっている。今年は5つも花房がついた。

他の着生ランも、5株ぐらいたつぼみが大きくなってきている。3～4月は楽しめそうだ。



数年前に植えたホワイトサポテがしっかり大きくなっている。収穫に至るまでには、複数の株が必要なことを最近知った。この苗を売っている店を見つけるのに苦労したが、ようやく購入できて、植え付けた。実をつけるのを期待する。2～3年はかかるだろう。



2018年02月22日

千年木 観葉植物1

一年間32回の連載になった「私の庭畑づくりの特徴」を終えた。これから形を変えて新しい連載を始める。まず、これまで取り上げることが少なかった観葉植物からだ。

ここに住み始めたころ、記念品としていただいたものを庭畑に植えたこと、隣地境界近くに垣根代わりに植えたことなどが、観葉植物のスタートだった。沖縄自生のものも多い。そして挿し木で簡単に殖えるものが多いので、どんどんふえてきた。無論、苗店で買ってきて植えたものもある。

10年近く前に、山方政樹「観葉植物の育て方」西東社2009年という本を買った。見ると、我が庭にはすでにたくさん観葉植物があることに気付いて驚いた。「これもそうか」「あれもそうか」という具合だ。我が家に無数といっていほどある千年木、クロトン、サンセベリアなどもそうなのだ。同書には83種が掲載されているが、ざっとチェックしてみると、30種余りが育っている。

まずは千年木。同書では、コルディリネとして登場する。コルディリネが属するのは、リュウケツジュ科だが、同書にはその科に属するものとして、ドラセナ、ユッカ、トックリラン、サンセベリアが挙げられている。驚いたことにこれらすべて我が庭畑にある。

沖縄では千年木を購入する人はいないだろう。20年ぐらい前に、那覇空港で「幸福の木」と名付けて、幹を短く切って売っていたのに驚いたことがある。幹を切って、地面に挿しておけば、1~2か月でほぼ間違いなく伸びてくるのだ。

30年前までの西原での第一次沖縄生活でも育てていた。1990年に愛知に引っ越す時、記念品として幹を2~3本切って、引っ越し荷物に入れておいた。それを、20センチくらいに切って、鉢植えにしたり、知人に差し上げたりした。中京大学の研究室にも置いていた。そして、2003年に職場を去る時には、その鉢植えを事務室に贈呈してきた。

挿し木は、大変簡単で、切った幹を数日間、水につけておいて、地面に棒を差し込んで作った穴に差し込むだけだ。土は何でもOKで、我が家の粘土質の土にとってもあう。あとの管理は事実上不要だ。繁殖しすぎるので、ひこばえなどを整理する必要があるほどだ。

現在の活用としては、ベランダに入る日差しを防ぐ作戦として、大鉢11個に30本ほど育てている。隣地境界にも、



浅野誠 庭畑2018年

垣根のようにして育てている。おそらく100本ぐらいになっているだろう。

花は地味で気づかれにくいですが、結構美しい。

前頁下左写真は、ベランダの日よけ用。下右は、垣根用だ。

2018年02月11日

まとめと今後 ステージ転換 ミフクラギ伐採 私の庭畑つくりの特徴32最終回

当初予定より長い連載になった。他にも書きたいことがあるが、ひとまず閉じることにする。いずれ、テーマ別の連載を始めることになるだろう。連載テーマの候補をあげておこう。

・野菜 畑に地植えしたものと、3階ベランダのコンテナで育てているもの20~30種類

・観葉植物 知らないうちにたくさん植えてきた。各地にある熱帯植物園のミニ版のような様相を少し見せ始めている。30~40種類ぐらいになりそうだが、よくはわからない。

・薬草 月桃、フーチバー、ハママーチ、クミスクチンをはじめとして薬草茶・薬用酒・防虫袋を作っているが、それらの材料となっている。



庭畑は、自然と私との共演の物語という感じだ。毎日、作業しながら眺めて雰囲気を楽しんでいる。14年目なのだが、庭畑も随分変化している。植えて育てること中心から、整えること中心になってきた。収穫

する事とともに、剪定が作業の大きな柱になっている。写真は、玄関への通路周辺だが、真ん中にあるミフクラギが、風で折れたこともあるし、周りの木々と競合していることもあるので、伐採することにした。その最後の記念写真というわけだ。

こうして、庭畑もステージが移っていく。

次の連載は、どんなステージになるだろうか。

2018年02月01日

らせん型ハーブガーデン 私の庭畑つくりの特徴31

読んだ本からヒントを得て、10年以上前に、畑の東端に直径2メートル足らずのものを一つ作った。3~4年前に



それを閉じて、新しいものを庭の中央に、3メートル余りの大きさで作った。穴を掘って、高さ数十センチになる大量の枝葉を入れ込み、上から土をかぶせたものに、らせん状に岩を並べ、2～3回転の段を作った。

中央に高さ3メートルほどの柱サボテンを植え、周りに10種類ほどのハーブを植える。我が庭最大のハーブ園だ。その脇に池もある。

ラセンにすると、日当たり具合、湿り具合などに違いがあるので、ハーブの適性に応じて植えるのだ。

2018年01月23日

インドナツメ収穫 とても美味しくて驚き

この時期らしく、曇りが多く、雨がふったり晴れたりとよく変わる天気。ひどい寒さでないのがいい。私は、冬の沖縄は好きではない。暗い雰囲気になるからだ。

それでも、春が待たれる雰囲気が漂い始める。「もうすぐ春ですよ」といった感じだ。イノーのアーサが、緑がかかるのが一番早い。

時間に余裕がある1月、単行本の最後のチェックをしている。何度しても、加筆補正するところを見つける。それが終わる1月末から、学童研修ワークショップが目白押し。さらに、年度末ということもあって、私がかかわる南城市の会議も連続する。

市長が代わって、どんな新たな動きが生まれてくるのだろうか。いろいろな声が聞こえ始める。閑な私にしては、忙しい季節に入りそうな気配を感じる。

そんな日々のなかでの大ニュースはインドナツメ。数年前に植えたもので、高さ4メートルになる。去年は数個の実がついた。今年はたくさん実がついたので、摘果作業をしたが、30個余りの実がついた枝を折ってしまった。しかた



浅野誠 庭畑2018年

なくその枝についた大小さまざまな実をすべて収穫した。試しに食べてみると、これがまた美味しいのだ。大きいのも小さいのも。リンゴと梨を合わせたような味。折からの来客にも食べてもらったが、美味しいという声。自分も育ててみようという話も出る。

珍しいものなので、育て方や食べ方なども、初めて尽くし。どうやら、我が家の自慢の一つになりそうだ。折れてない枝にもまだ10個以上実っている。

他にも、カニステルとパッションフルーツの追熟が終わって、食べごろだ。

こんな折、来客も続いている。ラッキーな来客?!

2018年01月22日

蝶と食草 私の庭畑つくりの特徴30

我が庭畑には蝶がたくさん来訪する。特定の食草をもつ蝶も多いので、意図的に植えて育てているものもある。

代表的には、オオゴマダラが食べるホウライカガミだ。植えて数年たつので、結構大きく伸びている。これまでに、オオゴマダラが何度か来訪している。卵を産み付け、金色のさなぎがぶらさがったこともある。しかし、回数はそれほど多くない。常時いるようになればと願っている。



ほかには、カバマダラの食草のトウワタが、あちこちに育っている。

特定の食草を育てているわけではないが、他にも、多種類の蝶が来訪し舞っている。隣接する森の木々を好む蝶が、我が家を舞うことも多い。

アサギマダラ ツマベニチョウ リュウキュウミスジ キチョウ
ナガサキアゲハ シロオビアゲハ アオスジアゲハ . . .

ミツバチなどの蜂なども多い。そんな生き物の連鎖があるので、虫そして鳥なども多種類が住んでいる。自然のつながりのなかに我が庭畑も存在している。



2018年01月14日

池 私の庭畑つくりの特徴29

日当たりがよい南向きの庭に一つと、日蔭の北向きの中庭に一つずつ、池を作った。中庭のものは小さい。双方とも穴を掘って、市販のプラスチック製の「池」を入れた。双方の池には、ホテイアオイを育てている。南向きの庭の池にはハスを2鉢入れている。いずれも、よく開花する。日蔭の池は、植物にとって条件が悪く、よく育たないので、日当たりの池の方から、補充を繰り返している。



メダカが卵をうみつけるので、ホテイアオイは二週間ごとにバケツに移し、幼魚を育てている。卵を親メダカが食べてしまうのを防ぐためでもある。二か月くらいバケツで育てたものを、池に戻す。一時、水浄化機能が高いといわれるエンサイを育てていたこともある。

池には動物が多い。飼っているメダカだけでなく、いろいろな動物がやってくる。

まずは、何種類もの蛙。やってきて卵を産み付け、おたまじゃくしとして育っていく。そして、トンボが卵を

産み付ける。幼虫のヤゴが、メダカを食べるのは困りものだ。

北向け庭の池

2～3年前から、ホタルが舞い、光り輝くことが時々あるが、池をつくったためだろうか。

鳩などの鳥が水を飲みにくることもある。

2018年01月06日

ブーゲンビリア アリよけ・蚊よけミント 鳩 チシャノキ ビワ

森に囲まれた我が家は、自然のなかにあるといえ





なり始めたものまでわかる。

よう。いくつかのトピック。

12月の寒さが小休止して、穏やかな天気の正月になった。いろいろな花が開いている。

まず、我が家のシンボルのブーゲンビリア。庭から我が家とブーゲンビリアを写す。

なぜか、チシャノキも満開。我が敷地内のは、オオイタビの締め殺しで元気がないが、隣地のは元気がいい。

ビワもどんどん開花。中左写真をよく見ると、すでに実になり

自然のなかの我が家なので、アリや蚊も出てくる。寒い季節でも、少ないにしても登場する。対策はいろいろとあるが、今やっている一つは、建物入口の戸やドア付近に、アリよけ・蚊よけのミント類を置くこと。中右写真の中の左は、



アリよけのペニーロイヤルミント。右は蚊よけのクールミント



隣の森には、鳩のカップルが住んでいる。我が家のベランダを餌場・水場にするどころか、カップルの愛の場ともなっている。小鳥のために用意した餌も、かれらが食べている。



2018年01月01日

タマリユ オリズラン ポトス
セダム グランドカバー 私の庭畑つ



くりの特徴28

最初のころは、庭は芝生中心にした。しかし、知識もなしに、ただ買って来たものを置いただけだったので、なかなかうまくいかなかった。加えて、庭にらせん型ハーブガーデンや池を作り、芝面積が減ってきた。そこで、思い切って芝はやめた。でも一部に高麗芝の生き残りがみられる。

グラウンドカバーの主力は、タマリユード。グラウンドカバー面積の半分以上を占めている。愛知時代に育てていたもので、引っ越しの際に、大量に引っ越し荷物に入れて持ってきて移植した。といっても、最初は「点」状態だった。それが、3~4年で線状態に、そして、今では面状態に近づいている。通路の縁取りとして植えたものも、縁取り以上になってきている。完全な日陰になるころでは、やや元気がないが、半日陰では問題なく育つ。栄養不足というのはありえないという顔をしている。植えるだけで、あとはどんどん殖えていく。踏まれても、どうということはない。

次に活用しているのが、オリズランだ。これも繁殖力旺盛だ。伸びたツルが地面をはってどんどん殖えていく。結構美しいものだ。日陰でも大丈夫だ。踏みつけるわけにはいかないが。栄養状態は気にする必要はほぼない。



そして、ポトスも活用しているが、これはむしろ抑えつけるのに苦労しているといった方がいい。条件がいい所では、「これもポトスカ」と思う程大きくなる。木登りまでする。そこで、どんどんカットしているのが実情だ。現在は中庭の半分をおおっている。

もう一つは、セダム。庭のブーゲンビリアの「ふもと」に広がっている。これもまた元気がいいので、広がり過ぎのところは整理している。下右写真の右がセダムで、左はタマリユード

